

## シラバスを活用した社会科 学習指導と評価の工夫

栃木県塩谷町立塩谷中学校

むらかみとしまさ  
村上利雅

### 【実践の内容】

子供たちが意欲的に学習に取り組もうとする時、そこにはいくつかのハードルがあると思う。例えば「何をどのように勉強すればよいのだろうか？」(勉強の仕方がわからない)、「教科書を読もうと思ったが、漢字が難しくて読めない」(基礎学力の低下)、「どうやって調べればよいのだろうか？」(学び方が未習得)などである。このような子供たちの学習支援は、今まで教師や教材に頼るのがほとんどであった。そのため、どんな授業をすればよいのか、どんな教材が有効なのか、といった研究が多かった。

今回、研究対象にしたシラバスとは、本来授業内容を伝えるためのものである。しかし、単にそれだけの目的ではなく、他にもっと有効な活用方法があるのではないだろうかと考えた。そこで社会科の基礎的・基本的な内容の確実な定着と、指導と評価の一体化を図る試みとして、シラバスを活用した実践を報告したいと思う。

### 【論文内容の紹介】

#### 1 シラバス作成の意図とその活用

シラバスを作成するにあたって、一番心掛けたことは、生徒にとって使いやすいシラバスにすることである。その他、保護者や地域住民にも見ていただき、どのような授業が展開されているのかを伝える情報公開の働き、また、教師自身が自らの授業を振り返る際の資料としても活用できることなども十分に考慮した。シラバスに表記した主な内容は次の

とおりである。

- (ア) 次の時間の学習内容・予習方法確認
- (イ) 本時のねらい(ただし、表記上は生徒にとっての学習課題)
- (ウ) 授業理解度(自己)チェック
- (エ) 復習方法(家庭学習内容)
- (オ) より深く学びたい際の参考資料 など

#### 2 指導と評価の一体化を図るための工夫

生徒はシラバスを使って本時の学習課題を理解してから授業にはいる。予習・復習の実施状況や授業の理解度(自己評価)も把握できる。さらに参考資料を掲載することで、興味・関心の高い生徒の発展的な学習のサポートにもなる。授業後、わずか数秒でできる「授業理解度」チェックは、私自身の授業を顧みる際の大きな資料となり、たいへん有効であった。

#### 3 研究の成果と課題

シラバスの活用によって、基礎的・基本的な内容の確実な定着と、指導と評価の一体化を目指した本研究であるが、実践の結果、以下のような成果が得られた。

- (ア) 必要な情報提供が、生徒の計画的な学習を支援できた。
- (イ) 学習内容を事前に知ることができ、生徒の積極的な授業参加を促した。
- (ウ) 生徒、保護者、学校の情報の共有化で学習内容を通して対話が増えた。
- (エ) 教師側の授業改善に役立った。

今まで自主学習の手引き(勉強の仕方)の研究は少なかったと思う。シラバスは、生徒・保護者への公開を前提とするものであり、十分な説明責任を果たせるものであると同時に、生徒・保護者から見て理解しやすい内容となっていなければならない。なぜならばシラバスの大きな役割は、生徒の自主学習を支えるものだからである。その意味で、自ら課題をもって生き生きと意欲的に学ぶ能力や態度を育てるためにもシラバスは有効であるといえよう。